

市公連だより

第32号

発行者
熊谷市
公民館連合会
会長 山川幸男
事務局
熊谷市
中央公民館
電話 048-
523-0895

公民館紹介

地域と触れ合う東公民館

熊谷東公民館

主事 武石 直彦

東公民館は熊谷駅北口徒歩10分の所に有り、熊谷の商業・公共施設が多く点在し世帯数約六千世帯、約一万七千人の人口の地域です。コロナ禍で公民館の行事は中止の為、今回は9月5日に行われた中西地区災害時安否確認訓練をご紹介します。



安否確認訓練の様子

『無事です』と印刷された黄色いタオルを掲示します。

地域の行事にも協力させていただきたいと思えます。



青色パトロールのメンバー

丸木人形くんがお出迎え

荒川公民館

館長 大澤 勇

安否確認訓練は、当日9時に埼玉県中部を震源とする震度6弱の大地震を想定し約千四百世帯を対象としました。自治会員は本人家族の安否を確認し、家の表(玄関先、

門扉)に班長が見やすい場所、安否確認用の

熊谷駅から秩父線で1つ目の「上熊谷駅」。そこから徒歩5分ほどの場所に荒川公民館があります。レンガ張りの3階建て建物で、駐車場は15台分と狭いですが北隣のJR



班長が見やすい場所、安否確認用の

地区による青色パトロール(隊員約40名・車20台所属)の出陣式も行われました。東公民館では地域の皆さんとの触れ合いを大切に今後も

新幹線高架下には100円駐車場もあるのが実に便利です。公民館では17時〜22時までと週末の土日とも警備さんが入る為、休館は年末年始の期間だけ。館長、主事、職員は5名おり女性は3名、6割という今流の女性率です。

「月曜ミーティング」と呼んでいますが、毎週月曜9時から11時過ぎまで全職員出席の会議を持ち、前後2週間分の報告と予定についての確認を含め思いつき議論しますが、その間にも貸部屋予約の電話申し込みや窓口受付が入るため、しばし中断しながらのミーティングとなります。9月21日の祝日明けの火曜日には初めてEigoのビデオ通話機能を利用し、画面の顔を見ながら月曜ミーティングの火曜バージョンを実施してみました。これは当公民館が災害時の第2避難所の指定を受けている事もあって、それを想定した予行演習も兼ねました。が意義深い試みだったと強く感じました。



サポーター設置による丸木人形「荒川まもる」くん

集では地区推薦の編集委員10名ほどが地域情報を持ち寄り、事務局からは公民館情報を準備して編集会議を行なっており、毎月の紙面の仕上がりは地域自慢の広報となっております。印刷は二千五百部行い、各自治会にお願いして全家庭に配布されているのも大きな特徴です。

コロナ禍となって利用団体数は減少の傾向にあるものの、逆に他公民館から荒川公民館へ移って広い部屋を利用する団体も現れています。また、最近では公民館サポート隊の個人や小団体が現れ、1階ロビーに七夕を一緒に飾ったり、玄関前の花壇の手入れをして頂いています。まさに地域と連携した公民館運営の理想の姿が、今の荒川公民館にはあります。

ふるさとに学ぶ

劍豪、秋山要助に学ぶ

箱田公民館

館長 河西 昌美

劍豪秋山要助は、旧埼玉郡箱田村出身で一七七二年に紺屋の息子として生まれた。

幼少の頃から剣術を好み、十六歳の頃秩父甲源一刀流の逸見太四郎の弟子入りを願ったが「紺屋の倅に剣術は必要ない」と断られた。

この事で要助は発奮、江戸に出て神道無念流の戸崎道場に入門、十九歳で「突く引く突く」の奥義を極めて免許皆伝をうけ、箱田に帰ってきた。まさに紺屋の倅が反骨精神をもって厳しさに耐え忍び、郷里に凱旋した。

ところが、その年に忍藩剣道師範、三田三五郎を御前試合で打ち負かしたため、所払いとなり出奔した。

時が今なら「付度」して師範に負けてやれば、もっと出

世していたかも……。しかし、要助は、そんな姑息なことは許せない。正々堂々と勝負に挑み打ち負かしたのだ。

要助は全国各地を歴訪し、十九歳の時水戸の帯金弥四郎宅に滞留して立原杏所で墨絵を学び、梅の絵は専門大家を凌ぐほど妙筆であった。

劍術は「動」はもちろん、「静」の会得が大切。要助は墨絵から「静」の極意を学んだのであろう。

その後、郷里箱田に帰り、ここで道場を持ったのは四十七歳前後の頃といわれている。

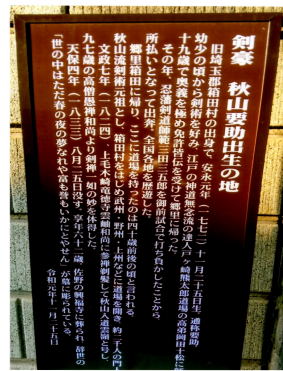
秋山流劍術元祖として、箱田村をはじめ武州・野州佐野・上州などに道場を開き、約二千人の門人を指導した。

晩年は、勤王家山崎尚志道人の招きで佐野に赴き、尚志堂塾で劍術を教え、ここを第二の故郷と定めた。

そして、五十三歳で剃髪し秋山入道雲嶺と号し、その後六十二歳で病のため死去。辞世の句は「世の中はただ春の

夜の夢なれや、富も誉もいかにやせん」と佐野の興福寺の墓に彫られている。

この辞世の句の意味する所は奥が深く、私たちの「生き様」をもう一度じっくり考えるように訴えているように思える。



ふるさとを振り返り

男沼公民館

館長 原口 香

男沼地区は、熊谷市の最北西部に位置し、利根川に接している。この地は古くから利根川の氾濫が繰り返されたため土砂が堆積し肥沃な土壌が形成されていた。

昭和三十年代後半まで米や麦作りと養蚕が農業の中心だった。旧妻沼町は昭和三十一年度から、国が進めた農業構

造改善事業にいち早く手を挙げ、男沼地区が全国九十か所の一つとして指定を受けた。

そこでは田畑の区画が一定の大きさに広げられ大型機械が積極的に導入され、野菜の大産地へ変貌を遂げていった。

そうした中、余暇を利用したレクリエーションには大勢の方々が参加し始めてくれた。特に私の住む出来島地区では東京オリピックの開催された昭和三十九年頃から地区民の親睦を深めるためのソフトボール大会が始められた。その盛り上がりが周りの地区にも広がり、男沼地区全体でも大会を催すようになり、ついに旧妻沼町全体までに広がり、多くの方々がソフトボールを楽しまれるようになった。また、こうした大人達のレクだけでなく子ども達との触れ合いも作っていった。男沼小学校の卒業生を対象に夏休みを利用して「子豚の丸焼き体験」を行った。体験を通して「食に対する理解」を深めながら夏の一時を大人も子どもも一緒に楽しんだ。

各地区の夏祭りは、疫病退散や五穀豊穡を願って、どの地区でも『てんのう様』と呼ばれる神輿を担ぎ、地区内を回り、皆で夏の一日を楽しむ催しだった。出来島地区では今でもその伝統が残り、「東の大杉様のあばれ神輿」として皆に親しまれている。この祭りがマスコミやインターネット等に取り上げられ、カメラ愛好者の来訪者も増え、近隣の神輿好き達の加勢も得るなど毎年盛大になってきている。



出来島のあばれ神輿

このような地域に残る伝統も年々変化してきている。でも我々の手で先人達の残してくれたこの素晴らしき地域遺産を是非守り続けていきたい。

学級講座紹介

はばたき学級書道クラブ

宮町公民館

館長 上村 悦子

「皆さんこんにちは。お元気でしたか？」毎月第2・第4水曜日、午後1時30分、中央公民館2の1の部屋に明るく元気な声が響きます。講師の依田祥芳先生（日本書道院第一科審査委員）です。

まずはテーブルに楷書、草書、仮名など数種類のお手本が並べられます。生徒はそれぞれ自分の好きな課題を選び、筆を取ります。筆を持つと不思議です。ゆったりとした時間の流れが生まれます。そして、自分の好きな言葉や漢字を書き始めると心の中まで表現できるような感覚になります。

一方で、どこか別の部屋から聞こえてくる歌声につられて思わず一緒に口ずさんでしまう先生と生徒。公民館ならではの光景です。愛犬の話題

に早速筆を置きスマホを取り出すOさん、握力が弱り手元を汚してしまった仲間をそつと介助するKさんなど、多様性を大切にした自由な雰囲気

のクラブです。みんな違つてそれがいい、でも和気藹々と心地よい時間を共有する仲間たちです。

一人ひとりの個性を尊重して教えてくださる温かくておらかな先生。いつも自然体でクラブをまとめくださるSさん。月2回の書の研鑽と顔合わせを楽しみに来館する10人の仲間たち。皆さんの気持ち

が公民館に集い、書を学び、楽しく交流できるよう、また新しい仲間と出会えるよう、館長としても支援していきま

す。 さて、本書道クラブは、来年2月15日から、市民ホール展示ケースで活動の成果を発表します。市民の皆さんに見ていただくための作品作りを

11月から始めました。自分らしさにこだわってどんな作品になるでしょうか。どうぞお楽しみに。



地域の人達が気軽に

活動出来る公民館

大原公民館

主事 西田 勝利

大原公民館は、熊谷市のほぼ中央に位置し、公民館の近くには五つの学校が有り、学園都市です。東隣には、県立熊谷高等学校と熊谷市医師会看護専門学校、南側には市立石原小学校、西側には市立大原中学校、北隣には県立熊谷農業高等学校が有り、通学時には学生・児童は7時30分から8時30分にかけて車の許可者以外は進入禁止の中を通学しております。

昨年・今年とコロナの影響の為にサークルがあまり活動

しないのはどの公民館も同じだと思えますが、市公連だよりの25号にも書かれています。大原公民館は年間14〜15の講座を企画していますが、



渋沢栄一記念館 解説員による講演

「渋沢栄一の生涯 くみんながうれしいのが一番」

渋沢栄一の生涯についての話を7月8日に渋沢栄一記念館解説員篠田先生に講演して頂き、深谷と熊谷はそんなに離れていないのに知らない事が多く大変勉強になりました。

渋沢栄一という人は幾多の事業に関係していても、何時も自己本位、即ち自分が金を儲けたいという趣旨から関係していたことはない。実業界には幾多の人物が居たが只ただ実業界の為に斡旋努力しようというのを以て終始していたのは、独り渋沢栄一があるのみであった。

「グラウンド・ゴルフ大会」

今までプレーした所にコンビニが新築の店を建てたのですぐ西側にコースを作つて実施した。天候にも恵まれ公民館主催のグラウンド・ゴルフ大会が少数精鋭でしたが楽しくプレーする事が出来皆喜んでいました。

「男性が手芸に励む」

高齢化も進んでいる今、趣味の手芸に男性も三年程前から参加して頂き、皆さんと楽しく愉快に手芸をやっています。

これからも一人でも多くの皆さんに入会して頂けたら嬉しい限りです。

人権尊重のまちづくり

想う つながる 一歩踏み出す

熊谷市教育委員会

社会教育課 茂木 秀典

今年も延期となっていた、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が実施されました。コロナ禍で賛否両論ある中での開催でしたが、オリンピック憲章に記載されている人権という視点から振り返ってみると、人種や女性の人権に関する意識が高まり、ジェンダーや障害がある人に対する理解が深まったように思います。

一方で、現在の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、私たちの暮らしの身近なところで、いわれなき差別や偏見が起り社会問題になっています。このような問題を改善していくためには、思い込みではなく思いやりを持って、正しい知識と情報をもとに行動することが大切です。また、新型コロナウイルス

17の目標の一つである「5: ジェンダー平等」については、6つの指標が示されており、日本も目標達成に向けて改善されている指標がありました。しかし一方で、「賃金のジェンダー格差」や「無償労働時間」のジェンダー格差」等については、深刻な課題を抱えていると評価されています。

「貧困・差別・健康・教育・ジェンダー平等」といった人間の尊厳に関わる問題も数多くある中で、男女共同参画の視点から見ると、ジェンダー格差が密接に結びつき、様々な問題に関連していることが分かります。性別などに関わらず、全ての人がその人らしく生きることができる社会の実現が、様々な目標の達成につながっています。

さて、全国の教育現場でも性差解消に向けて取り組んでいます。改善例の一つとして、性差による役割分担の固定化につながらないように、全国のほとんどの小・中学校で男女混合名簿を導入していること。しかし一方で、小学生によるタブレット端末を使用したいじめが起るなど、解決しなければならぬ問題も多くあります。

熊谷市の全小・中学校では、「いじめ撲滅宣言」で「いじめゼロ」を、「スマホ使用の方宣言」ではSNSやインターネットトラブルの防止を図り、情報を正しく判断し、スマートフォン等を賢く上手に使うことを目指しています。さらに、生きる力を育むための土台として、平成28年文部科学大臣表彰に輝いた「熊谷の子どもたちは、これができます！」『4つの実践』と『3減運動』に取り組んでいます。

この取組を人権教育の視点から捉えると、次のような効果があります。例えば、「朝ごはんをしっかりと食べる」は、一日の生活の活力、心も体も成長させる、生きる源であるとともに、家族と一緒に食事をすることで、家族の優しさやありがたさを感じることができ、子どもたちの人権意識は、大人の言動に大きく影響されます。したがって、「大人が手本となって」という言葉が大切なキーワードになっています。

パラリンピックのシンボルマークは、赤・青・緑の3色の曲線を組み合わせた「スリー・アギトス」と呼ばれています。「アギト」にはラテン語で「私は動く」という意味があり、困難に挑戦する選手の躍動感を表現しているそうです。暮らしの中で人権問題に遭遇した時に、物事に対する感じ方や考え方、価値観などはそれぞれ違うということを理解した上で、違う考え方を否定するのではなく、まずはその相手の立場に立つて考え想像し、尊重していくことが大切。それが人権尊重の社会を築いていく第一歩となるのではないのでしょうか。



石匠 窪世祥と熊谷の石造物

前中央公民館長 森田 安彦

江戸後期、中慶雲・廣群鶴（一七五〇～一八〇九）とともに、江戸の三大名石工と称された、石碑彫刻の窪世祥。生没年は不詳だが、文化期（一八〇八）から嘉永期（一八五四）の作品が確認されており、現在の墨田区内に工房があつたとされている。書家の中村仏庵（一七五一～一八三四）、亀田鵬斎（一七五二～一八二六）、絵師で俳人の酒井抱一（一七六一～一八二九）、戯作者の山東京山（一七六九～一八五八）、儒学者の寺門静軒（一七九六～一八六八）等と親交があり、多くの文人の書画を石碑に刻んでいる。

この窪世祥の手による石碑は、北海道から岡山県まで一三〇点余りが確認されている（『江戸前の石工窪世祥』（『喜津山清 一〇一六年出版』）

都道府県別にみると、江戸府内ということでは東京都が六九

【福寺】吉田宗敬（一七三九～一八一三）は、吉田家二代目当主。村内や近隣にかかる橋を石橋に架け替えたり、浅間山の噴火の際に被害者に援助物資を送ったりした慈善事業家。三代目の宗敏が宗敬の七回忌に際し建てたもので、墓石には莊嚴として、双龍、青海波文の中に岩島の装飾が施される優品。



吉田市右衛門宗敬墓

○備前渠再興記碑 【天保四年（一八三三） 八木田備前渠再興記碑公園】天明三年（一七八三）の浅間山の大噴火により、備前渠は妻沼地域では使用不能となった。これを幕府に願い出て、再興したことを記念して造立したのが本碑。再興には、吉田市右衛門宗敏が、復興のために奔走し、金二〇〇両の大金を寄付しており、碑文には吉田市右衛門宗敏への感謝の内容が刻



備前渠再興記碑

○手水鉢 【妻沼歡喜院 天保八年（一八三六）】正面の偈頌は『大聖歡喜天使兜法経』からとつたもので「我有微妙法世間甚希有 衆生受持者皆與願満足 右 昇虚空而説偈」。住職海旭の筆致を、花崗岩にみごとに字彫りしている。



手水鉢

○梅所居士擴記碑 【玉井觀童堂 天保一〇年（一八三九）】玉井村の私塾師匠片岡良（号を梅所）の筆塚。



山王靈神碑

仰で、その起原は山岳信仰とされている。



梅所居士擴記碑

この他、妻沼歡喜院の血道之碑、下奈良集福寺の浄邦智清信女之墓、上奈良の大夢先生墓碑がある。

○山王靈神碑 【天保八年（一八三七） 奈良四方寺地内】代々名主を務める吉田六左衛門家三代目宗孝により建てられた山神碑。山神とは、「山の神」を指し、日吉大社を本社とする信

窪世祥が刻んだ石碑が最も多く確認されている。これは、中山道を介した熊谷と江戸の文人等の交友関係によるものと推測されるが、江戸と熊谷の強い繋がりを示す一側面の事例として興味深い。



大濱玄道墓(左)
安道墓(右)

○吉田市右衛門宗敬墓 【文政二年（一八一九） 下奈良集

職員等研修会報告

8月開催が延期となつていた「職員等研修会」が11月19日に妻沼中央公民館で開催されました。当日は公民館利用の規制緩和を受け、各館2名までの参加となり、久しぶりに活気のある研修会となりました。事例発表は第3ブロック代表の新堀公民館、第4ブロック代表の吉岡公民館が行いました。

最初に新堀の大澤館長より

新堀公民館発足の紹介があり、その後事例発表がスタートしました。新堀公民館の生涯学習の内、健康講座である「ほほえみ学級は『仲間づくり、生き甲斐探し』をテーマに年間を通して活動しており、例年人気の講座となっております。また一般講座は『わくわくどきどきをみつけよう』をテーマに手芸や調理、文学講座など多彩な講座を計画しています。そのほか30グループを擁する同好会と共催で各種大会

を催したり、研修旅行を春と企画しています。今後利用者年齢の広がり・世代間交流の拡大を目指した、魅力的な講座の実施、そして地域との連携を益々深めるための地域コミュニケーションに取り組んでいきます。



新堀公民館の発表

次に、吉岡公民館は、元気な司会あいさつの後、猪野公民館長が事例発表をされました。吉岡公民館の主要事業はふれあい学級・一般学級、そして学習グループ活動がありますが、昨年からコロナ禍で落ち込んだ活動状況、そして今年からの取り組み状況を数表で分かり易く説明されました。

ふれあい学級は昨年度は中止でしたが、3年度は20名と人数を絞り、また講座数も減



吉岡公民館の発表

らして開講しています。一般学級は一部活動を中止していますが、コロナ禍前の活動に戻りつつあり、また新しく5講座を開設し、新規参加者の増加に繋がっています。学習グループ活動は11月より公民館利用制限緩和により、今後の参加人数増加を見込んでいます。また活動グループの代表による『吉岡公民館利用者連絡会』を設置し、利用者相互が支えあう公民館運営を実践しています。最後に地域との連携では特に『吉岡学校区連絡会』事業に参画し、吉岡地区の活性化に努めています。今後に向けては、コロナ禍に臨機応変に対応し、幅広い世代の参加および交流、親子参加の講座やイベント企画等の課題に取り組めます。

新任館長あいさつ

吉岡公民館長

猪野 和幸



十一月一日付けで田島前吉岡公民館長の後任として館長に就任しました猪野和幸です。残任期間ではありませんが、精一杯努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍での不自由な生活も一年八ヶ月が過ぎようとしています。この間、地域の皆様の公民館への足が遠のいてしまっているのが現状です。そうした中、開設できた講座へ参加した方々は、一様に眼が輝き、学ぼうとする姿勢に溢れていました。こうした公民館に集う楽しさ、学ぶ喜びを様々な世代の方に味わっていただけるよう、地域の皆様の御支援御協力をいただき運営していく所存です。

熊谷市公民館まつり

公民館まつりは、展示発表のみでの開催となります。なお、コロナ感染状況により中止の場合もあります。

御来場の際は、感染防止のため、氏名・連絡先の記帳及びマスクの着用、消毒、検温を行いますので御協力をお願いします。

○日時・場所 令和4年
3月5日(土) 10時～15時30分
3月6日(日) 10時～15時
妻沼中央公民館・展示館

編集後記

市公連だより「第32号」を発行するにあたり、原稿を寄せて下さった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。令和3年度はコロナ禍に始まりコロナで終わったように寄稿して頂いた内容も時代を反映した物となりました。令和4年度は楽しく明るい内容で欄が埋まることを期待し編集後記とさせていただきます。